

アソカ講話072

テーマ「課題解決のヒント ②」

利用者のケア方針を立てる上で大切な考え方を述べてみたい。

まず、ご利用者をケアする目的は何かという、目的意識を明確にしておくことである。究極、目的は一つ。ご利用者の QOL を高めるためである。様々なケアプランや処遇方針、関わりの仕方は、その目的を近づくための手段でしかない。だからこそ、日々する業務はケアが常にご利用所の QOL にとってどうかという視点は外せない。

次に大切なのは、起きていることの原因・本当の原因を突き止めることである。なぜなら、原因の捉え方で、対策、ケアの在り方が変わるからである。原因に応じた対策になるからこそ、正確なアセスメント(ご利用者の気持ちはどうか等)、原因の追及が求められる。

そして最後に、実現可能かどうかの検証である。制度・マンパワー・ご家族等の環境条件の問題で、今はすぐできないこともある。実現不可能なことを強制するとそこに無理が生じる。その無理が様々な歪を生む。結果元より悪くなることがある。全体や時間の流れの中で、プロセスとして現実対応することも大切なことである。理想が即、実現できることは少ない。理想に至る「プロセスとしての現実対応」を受け容れることが、理想を実現する道なのである。